

# ようこそ、土地改良区へ 〈中勢用水土地改良区〉

## 中勢用水土地改良区の水事情について

### 2.5回使ってわかりますか？ 中勢用水土地改良区 久保 勝

#### 1 はじめに

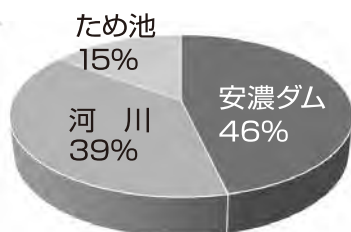
中勢用水土地改良区では国営・県営事業により建設された安濃ダムをはじめ安濃川の4つの頭首工と約120kmのパイプラインにより津市北部と亀山市の一部を合わせた約3,000haの農地にかんがいがしています。しかし、近年水不足で苦労しており、その水事情について紹介します。

#### 2 中勢用水の水源計画

中勢用水は3種類の水源を合わせて100%となる計画になっています。

(中勢用水水源内訳)  
万 m<sup>3</sup>

安濃ダム	2,510
河川	2,096
ため池	808
計	5,414

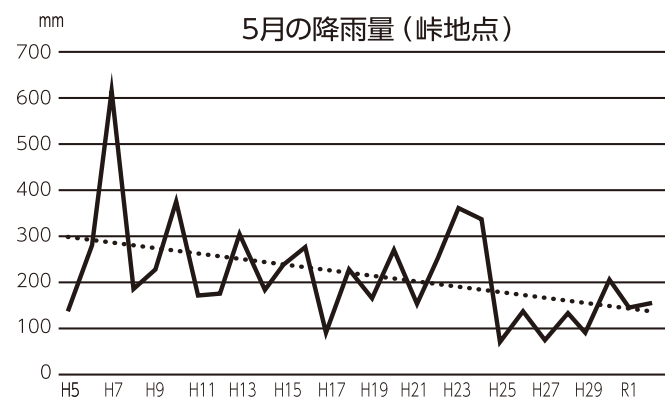


#### 3 安濃ダムの有効貯水量

安濃ダムの有効貯水量は980万 m<sup>3</sup>ですが、2の水源計画では2,510万 m<sup>3</sup>となっています。ということは満水でかんがい期を迎えても雨が降らなければ水が不足してしまうということです。答えが早すぎますが、ダム2.5杯分(2,510÷980≒2.5)即ち2.5回転してはじめて水源計画が成り立つこととなります。これが「安濃ダムは2.5回使いだ」と言われている理由です。

#### 4 最近の少雨傾向

近年は水が必要な時期に雨が降らないような状況でダム上流の雨量観測所の峠地点では5月は少雨化の傾向となっています。



#### 5 安濃ダムの現在の有効貯水量

ダムの有効貯水量は980万 m<sup>3</sup>ですが、平成24～26年の台風による豪雨で背後の山林が崩壊し約100万 m<sup>3</sup>の土砂がダム湖に流入してしまい、それ以前のもの合わせ130万 m<sup>3</sup>が有効貯水域に堆積し、現在の有効貯水量は850万 m<sup>3</sup>推定)程度になっています。(これで2.5 → 3回使いに)

#### 6 安濃ダムでの洪水調節

2019年10月の台風19号による関東地方での水害の発生により「既存ダムの洪水調節機能の強化に向けた基本方針」が出され、一級河川に続き二級河川に建設された安濃ダムにおいても8月末に河川管理者(県)、ダム管理者(県)、水利権者(国)と利水者である当土地改良区で協定を結びました。しかしながら、頻りに水害が発生していた安濃川の治水に寄与するため、利水専用のダムでありながら運用開始時点(平成2年度)から6～10月の洪水期は管理水位を低く設定して運用され、平成24年度からは試行的に事前放流も行われています。

このことについて、ある大学の先生から「安濃ダムは曲芸をしている」と言われたことが強く印象に残っています。

#### 7 近年のかんがい状況

ダム容量の減少と少雨傾向により平成25年以降通常給水できたのは平成28、30年の2年のみという状況で、特に給水停止の場合は職員総出でポンプをはじめ各種ホースや金具をかき集め各地域にポンプを貸し出し排水路等から反復取水をしていただいています。その燃料代、電気代などで改良区運営が厳しくなっています。

	通常給水 (黒) 50%給水 (白)						備考
	4月	5月	6月	7月	8月		
H25	通常給水	通常給水	給水停止	通常給水	通常給水		
H26	通常給水	通常給水	通常給水	通常給水	通常給水		
H27	通常給水	通常給水	給水停止	通常給水	通常給水		
H28	通常給水	通常給水	通常給水	通常給水	通常給水		
H29	通常給水	通常給水	給水停止	通常給水	通常給水		
H30	通常給水	通常給水	通常給水	通常給水	通常給水		
R1	通常給水	通常給水	通常給水	通常給水	通常給水		Aブロック Bブロック
R2	通常給水	通常給水	通常給水	通常給水	通常給水		

#### 8 地区水利委員制度の開始

水源の減少を節水で補うべく、平成29年秋から水利役員と担い手で検討会を重ね、令和元年度から無駄水をなくし効率よくかんがいを行うため、合意が得られた水利組織や自治会と協定を結び、地区水利委員の方に地域を回っていただいています。令和2年4月時点で56組織、面積にして約52%の地域で活動を行っていただいています。

#### 9 おわりに

以上のように水を配る改良区に水が十分でないという厳しい状況ですが、国、県、市をはじめ関係者の方々の支援もいただきながら安濃ダムが再生されるまで組合員の皆様とともに職員が一丸となり受益地域への安定給水に努めたいと考えています。